

Q2 健康診断（視力・聴力・心電図等）の事前指導で、有効な教材や方法がありますか。

健康診断

健康診断を円滑に実施するためには、事前指導が大切です。児童生徒は、健診に不安や恐怖を感じていることが少なくありません。事前に、何のためにそれをするのか、どのようにするのか、痛みを伴わないことなどを、担任から指導してもらいます。その際、前年度の健康診断の様子をVTRや写真に撮っておいて見せたり、学校医の写真を見せたりします。検査器具を前もって配っておけば、それに触って練習することもできます。

また、前日に絵カードを保護者に渡しておいて、家庭で絵を見せながら、明日行う健康診断を簡単に説明してもらいます。当日、絵や写真カードを見せ、今から行う健康診断について、担任からも説明してもらいます。



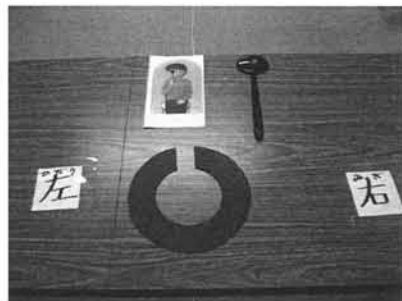
保健室の写真カード

1 視力検査

幼児用視力検査表は、蝶や魚などの影絵を使います。その形と名前を覚えてもらうために、毎朝健康観察カードを入れる籠にそのカードを貼って、「蝶の箱に入れてください」などの練習してもらう等の方法もあります。



幼児用絵カード



ハンドル

普段から、マッチングの練習をしている教材に、その絵カードを混ぜてもらって、できるようにしてもらいます。

ランドルト環は、厚紙でランドルト環と同じ形をした両手で持てるぐらいの輪（ハンドルと呼んでいます）を作ります。それを持ってもらい、同じ方向に回してもらいます。車の運転をしているように喜ぶ子どももいます。

視力検査では、遮眼するのを極端に嫌がる子がいます。担任の先生に手でふさいでもらったり、鉢巻きに垂れをつけて頭に巻く、眼鏡に黒の画用紙を挟む、等やってみます。どうしても遮眼できない場合は、両眼で測定します。

2 聴力検査

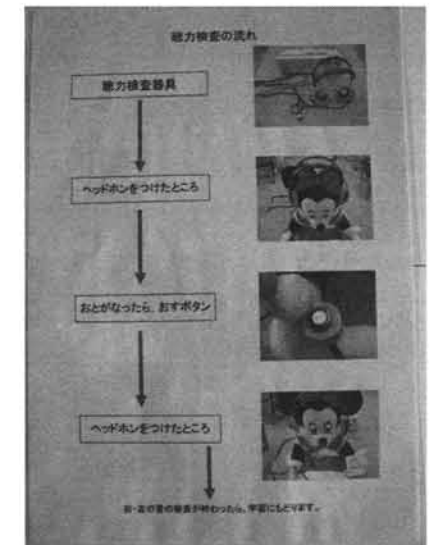
ヘッドホンをつけている写真を準備したり、大きめのぬいぐるみにヘッドホンをつけて見せたりします。

ヘッドホンをつけることが怖い子どもには、簡易のヘッドホン（簡単なものでよい）を使って慣れてもらいます。

音が出たらハイ！と手を上げる練習も、最初は指導者の手に児童生徒の手を載せて、音を鳴らした直後に指導者が一緒に手を上げると、できるようになる場合があります。

4000Hzをピー、1000Hzをプーなどと音の表現を分けて、聞こえた音を声で知らせる子どももいます。中には、音が鳴るとヘッドホンをトントンと指で叩いて知らせる場合もあります。

それぞれの児童生徒が、どのような表現なら聞こえたことを知らせることができるかを、観察することが大切です。



3 心電図検査

心電図については、古いシーツに人型を書いてベッドに敷き、その上に寝てもらいます。普段から、「20数えるまで寝るよ」というような指示を守る練習ができていると、頑張れることがあります。